

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地						
東京電子専門学校		昭和51年10月1日		山口 高広		〒 170-8418 (住所) 東京都豊島区東池袋3丁目6番1号 (電話) 03-3982-3131						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地						
学校法人電波学園		昭和30年9月27日		山口 高広		〒 170-8418 (住所) 東京都豊島区東池袋3丁目6番1号 (電話) 03-3982-3131						
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度						
工業	工業専門課程	セキュリティ・ネットワーク科		令和3(2021)年度	-	-						
学科の目的	3年間という学習期間を生かし、ITの知識についてより幅広く・深く学習出来るカリキュラムを構成し、プログラムだけでなくネットワークやデータベース、セキュリティなどにも精通したより高度な知識を持つ人材の育成を目指す。 特に不足していると言われているセキュリティエンジニア職につけるよう、セキュリティ関係の内容を他学科に比べ充実させて開講する。											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	今後ますます需要の高まるセキュリティ、ネットワークに精通したエンジニアを養成する。											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技			
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			3,240 単位時間	1,560 単位時間	単位時間	1,680 単位時間	単位時間	単位時間		
					単位	単位	単位	単位	単位	単位		
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)			留學生割合(B/A)	中退率						
170人	59人	2人			3%	0%						
就職等の状況	■卒業者数(C)		40人		■就職希望者数(D)		39人		■就職者数(E)		35人	
	■地元就職者数(F)		11人		■就職率(E/D)		90%		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		31%	
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		88%		■進学者数		1人		■その他			
	(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)											
	■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) Sierやシステム開発会社、インフラ関係の会社や職種。 (株)テクノプロ テクノプロ・デザイン社、(株)メイテックフィールダーズ、(株)ラックサイバーリンク、(株)IIIエンジニアリング など											
	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載											
	無											
	評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL											
	当該学科のホームページURL <a href="https://www.tokyo-ec.ac.jp/course/info/security_net.html">https://www.tokyo-ec.ac.jp/course/info/security_net.html</a>											
	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)										
総授業時数		3,240 単位時間										
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間										
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間										
うち必修授業時数		3,240 単位時間										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間										
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間										
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)											
	総単位数		0 単位									
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		00 単位										
うち企業等と連携した演習の単位数		00 単位										
うち必修単位数		00 単位										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		00 単位										
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		00 単位										
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		00 単位										
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを遡算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人									
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		5人									
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人									
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		5人									
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人									
	計		11人									
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行う事で、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来る体制を取っている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れるようにしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の委員は本校東京電子専門学校 教員と業界・企業関係者等の外部役員から成るものとし、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。教育課程編成委員会は2月または3月と、9月または10月に実施し、その意見・内容について教育課程に反映する体制をとるようにする。

教育課程編成委員会の審議結果はその後教務会議と理事会で改めて具体的な方針を決定し、教育課程に反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
森山 真人	LPI-Japan セールス&マーケティング	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	①
永澤 怜人	(株)プログデンス	令和7年2月1日～令和10年1月31日(3年)	③
砂賀 勝己	東京電子専門学校 情報学部学部長	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—
小泉 真理子	東京電子専門学校 情報学部教員(主任)	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—
平塚 悠生	東京電子専門学校 情報学部教員	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—
山口 真弘	東京電子専門学校 総務部副部長	令和4年9月1日～令和7年9月1日(3年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月または10月、2月または3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年2月25日 13:30～14:30

第2回 令和7年3月21日 13:30～14:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

<委員会の内容>

・外部委員に対して本学科のカリキュラムの特色や目指す育成人材像などを説明した上で、足りない部分や改善した方が良い部分について、外部委員から意見を頂いた。

・教務で把握している問題点について議案として取り上げ、どうすれば解決できるか議論を行った。

・頂いた意見のなかで主なものは次の通りである。

① プログラミングの授業はもう少し少なくてよいのではないか。

② トラブルシュートや問題解決型の内容を増やしてはどうか。

③ AIの活用

<活用状況>

・プログラミングの授業について、1年次に開講しているホームページの内容を、2年次Webプログラミングに統合することを検討。シラバス等の改定に着手した。

・セキュリティ解析や市場調査という問題解決型の授業について、もっとコマ数を増やせないか検討を始めた。セキュリティ解析については担当教員が実習課題を増やすための研究に着手している。

その他、サーバ構築などの科目でも、トラブルシュートの要素を入れるようシラバスの検討に入った。

・AI活用については、卒業制作をはじめとして活用できる範囲を増やすこととした。ただこの場合、使用に関するガイドラインをしっかりと作り、AIありきとはならないような工夫も取り入れることとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行うことで、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来るようにしている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れる。
- ・企業研修と同じ内容の授業を行う事で、実務に近いより実践的な内容の技術を習得できる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業開講前に学内担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。授業期間中は、学生の実習実施状況や技術習得状況を定期的に把握するために相互に情報交換を行う。全授業終了時には、実習講師による学生の実習成果を踏まえ、実習講師が中心となって成績評価・単位認定を行う。実習講師が単位認定に関して成果不足と判断した場合は、実習講師と担当教員が協議の上、補実習等を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
AWS演習	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	クラウドコンピューティングで利用されるAWSについて、基礎から学び、自力で基礎的な環境が作れるようになる。 また、クラウド環境とオンプレミス環境の使い分けについても判断できるようにする。	クレイエル株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・民間企業での研修(派遣型)を通して、民間企業の現状を知り、必要とされる人材等についての動向を得るなど、あるいは外部のセミナー等に参加をし、現在の技術動向の習得と合わせ、外部で無いと分からない、体感できないことに対して積極的に取り組むよう努めている。
- ・必要に応じ、企業から講師を招いて最新技術や需要の高い技術に関連するセミナーを開催する。
- ・学期ごとに学生による「授業アンケート」を実施し、校長室より個々の教員に結果を示した上で改善点を指摘し、よりよい授業となるよう改良・改善に努めさせている。また、「公開授業」という形で評価の高かった教員の授業を参観させ、個々の授業の参考とするようにしている。
- ・教員の研修は学校法人電波学園の定める「研修等に係る諸規程」に基づき定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AIとデータサイエンスの今	連携企業等:	(株)JDSC
期間:	2025/3/11,12	対象:	セキュリティ科担当全 教員
内容	AIとデータサイエンスの現状、有効な使い方、授業を行う上での基礎知識などを習得する		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	AIやデータサイエンスを学生に伝えるために	連携企業等:	(株)JDSC
期間:	2025/3/11,12	対象:	セキュリティ科担当全 教員
内容	AIの授業をするうえで学生に伝えるために必要なこと、伝え方、ガイドラインなどを学ぶ		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AIとデータサイエンスの今	45749	連携企業等:	(株)JDSC
期間:			対象:	セキュリティ科担当全 教員
内容:	2024年度に行った研修の振り返りと応用			
研修名:	情報処理安全確保支援士オンライン講習		連携企業等:	IPA
期間:	2025/7~8月内の1日		対象:	小泉 真理子
内容:	国家資格である安全確保支援士の更新にかかわる講習			
研修名:	セキュリティに関する法律について		連携企業等:	行政書士佐久間事務所
期間:	2026/2~3内の1日		対象:	セキュリティ科担当全 教員
内容:	情報セキュリティにかかわる法律の基礎知識や概要など			

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	分かりやすい話し方理解度を深める伝え方		連携企業等:	(株)シービー
期間:	2026/2~3内の1日		対象:	セキュリティ科担当全 教員
内容:	授業で学生たちの理解度がより深まる話し方や伝え方について学ぶ			
研修名:		0	連携企業等:	0
期間:		0	対象:	0
内容:	0			
研修名:		0	連携企業等:	0
期間:		0	対象:	0
内容:	0			





授業科目等の概要

HREF#	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	1	○		C言語演習 I	C言語文法で学んだ内容を、演習によってさらに理解度を深める。また、実際にプログラムを作成・実行することでプログラム開発の手順についても学習する。	1年前期	60	4			○	○	○		
	2	○		C言語演習 II	C言語文法で学んだ内容を、演習によってさらに理解度を深める。また、実際にプログラムを作成・実行することでプログラム開発の手順についても学習する。	1年後期	60	4			○	○	○		
	3	○		C言語文法 I	C言語の文法について学習する。コンパイラ言語の学習も初めてなので、コンパイラ言語でのプログラム開発に必要な知識についてもあわせて学習する。	1年前期	30	2	○			○	○		
	4	○		C言語文法 II	C言語の中でも重要なポイントを中心に、C言語の文法を学習する。	1年後期	30	2	○			○	○		
	5	○		Java Script	ブラウザで稼働する唯一の言語JavaScriptとは何なのかを知り基礎的な知識を学びます。	1年後期	60	4			○	○		○	
	6	○		CCNA I	最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける	1年後期	30	2	○			○	○		
	7	○		CCNA II	最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける	1年後期	30	2			○	○	○		
	8	○		セキュリティ I	情報セキュリティの基礎知識の習得とその活用	1年前期	30	2	○			○		○	
	9	○		セキュリティ II	情報セキュリティマネジメント試験の午前・午後問題分野について、要点確認と問題演習を行う。	1年後期	30	2	○			○		○	
	10	○		データベース演習 (SQL) I	DBとDBMSの基本機能を理解する。またSQLの基本文法を理解し、SQLを用いたデータ操作ができることを目標とする。	1年後期	30	2			○	○		○	
	11	○		アルゴリズム I	アルゴリズムの基礎を習得し、フローチャートや擬似言語の作成、およびそれらからのトレース作業の習得ができるようにする。	1年前期	30	2	○			○		○	
	12	○		アルゴリズム II	アルゴリズムの基礎を習得し、フローチャートや擬似言語の作成、およびそれらからのトレース作業の習得ができるようにする。	1年前期	30	2	○			○		○	
	13	○		ソフトウェア	基本情報技術者試験の範囲を中心に、コンピュータ科学の基礎、ソフトウェアの基礎を理解する。	1年前期	30	2	○			○		○	
	14	○		ハードウェア I	基本情報技術者試験の対象となる範囲を中心に、ハードウェアの基礎について学習する。時間があればパソコンの部品・内部構成・	1年前期	30	2	○			○		○	
	15	○		ハードウェア II	基本情報技術者試験の対象となる範囲を中心に、ハードウェアの基礎について学習する。時間があればパソコンの部品・内部構成・	1年前期	30	2	○			○		○	
	16	○		ネットワーク	基本情報技術者試験の対象となる範囲を中心に、ネットワークの基礎及びネットワーク技術を習得する。また、情報処理技術者試験の対象	1年前期	30	2	○			○		○	
	17	○		ホームページ	ウェブページやウェブサービス構築のための基本技術としてのHTMLおよびCSSを学び、レスポンシブデザインによるマルチデバイスに対応させたコーディングを行えることを目標とする。	1年前期	60	4			○	○		○	
	18	○		表計算基礎 I	officeソフトの一つであるExcelの基本操作を学習する。また後期には応用的、実践的な使用をするので、そのために必要な力を身につける。	1年前期	30	2			○	○		○	
	19	○		表計算基礎 II	Excelの応用的な利用法について学習する	1年後期	60	4			○	○		○	
	20	○		文書編集基礎	日本語ローマ字入力・特殊記号の入力、ブラインドタッチ入力講座アップ、社内文書社外文書作成、表作成と部載、部集書き、段落的設定や複数印刷、印刷の書き方講座、画像の編集と挿入などの応用まで、差し込み印刷やほか、封筒の宛名などビジネスで使う機能を学ぶ	1年前期	30	2			○	○		○	
	21	○		ITパスポート対策 I	ITパスポート試験合格を目標とする	1年前期	30	2	○			○		○	
	22	○		ITパスポート対策 II	ITパスポート試験合格を目標とする	1年前期	30	2	○			○		○	
	23	○		基本情報対策 I	基本情報技術者試験の合格を目指す	1年後期	30	2	○			○		○	
	24	○		基本情報科目A対策	基本情報技術者試験科目Aにおいて、合格水準の力を身につけることを目標とする。	1年後期	30	2	○			○		○	
	25	○		基本情報科目B対策 I	基本情報技術者試験 (FE) の取得を目指すため、科目Bの過去問などや主に出題されるアルゴリズムを学習する。	1年後期	30	2	○			○		○	
	26	○		基礎学力 I	①就職試験対策として必要な基礎学力を身に付ける ②現実の状況を日頃から理解し、就職活動をする意欲をもたせる	1年前期	30	2	○			○		○	
	27	○		基礎学力 II	①就職試験対策として必要な基礎学力を身に付ける ②現実の状況を日頃から理解し、就職活動をする意欲をもたせる	1年後期	30	2	○			○		○	



58	○	就職対策Ⅱ	企業に対する理解を深める。履歴書に書くネタ探しのポイントを習得する。様々な業種や企業を知る。	2 年 後 期	30	2	○		○	○											
59	○	就職対策Ⅲ	企業に対する理解を深める。履歴書に書くネタ探しのポイントを習得する。様々な業種や企業を知る。	2 年 後 期	30	2	○		○	○											
60	○	ビジネス検定対策	ビジネス能力検定3級合格を目指す。ビジネスの基本的な在り方を学び、実務力とコミュニケーション力をつける。	2 年 前 期	30	2	○		○	○											
61	○	ビジネスマナーⅡ	就職活動に役立ち、且つ社会人としても通用するビジネスマナーを身につける。併せて良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、日常生活での基本的なマナーの見直しも行う。	2 年 後 期	30	2	○		○	○											
62	○	ビジネス数学	ビジネス数学3級の合格を目指す。願わくば2級に合格したい。	2 年 後 期	30	2	○		○	○											
63	○	情報関連法規Ⅱ	①現代の市民生活を送るうえで必要な法的知識を修得する。 ②情報処理技術者として必要な法的知識を修得する。	2 年 前 期	30	2	○		○	○											
64	○	体育実習Ⅱ	運動や、課外活動、学習を通して、健全な身体と精神を育む。ハイクラスは、自然の多い公園などをおおむね4時間程度歩き心身のバランスを図ります。学習後は、各種催しの企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。心身の健全な育成を目指しています。	2 年 通 年	60	4			○	○	○	○									
65	○	課外活動Ⅱ	インターンシップで就業体験をしたり、企業との産学連携事業を通して特別授業やセミナーを受講、外部の勉強会やコンテスト参加など、就職に役立つ知識の習得や最新の技術動向に触れるなど、学内の授業だけでは体験できないことを経験する。	2 年 通 年	15	1			○	○	○	○									
66	○	Python	本講義では、プログラミング言語『Python』の基本文法とその応用技術について学びます。最終的に、Pythonを用いて簡単なアプリ開発をすることができる水準のプログラミング能力を習得することが目標です。	3 年 前 期	60	4			○	○											
67	○	CCNAⅦ	最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける	3 年 前 期	30	2	○		○	○											
68	○	CCNAⅧ	最終的にはCCNAを取得するだけの知識と、ネットワーク機器の基本的な操作を身につける	3 年 前 期	30	2			○	○	○										
69	○	サイバーセキュリティオペレーションズ	Ciscoが提供する CCNA Cybersecurity Operations コースを開講・受講。サイバーセキュリティの基礎の学習、及び資格 CyberOps Associate の取得を目指す。	3 年 後 期	60	4			○	○	○										
70	○	AWS演習	クラウドコンピューティングで利用されるAWSについて、基礎から学び、自力で基礎的な環境が作れるようになる。また、クラウド環境とオンプレミス環境の違いについても判断できるようになる。	3 年 後 期	60	4			○	○	○									○	
71	○	LPIC/Linuc対策Ⅱ	LPIC101取得を目標とする。	3 年 前 期	30	2	○		○	○											
72	○	インフラ設計構築演習	小規模ネットワークの設計構築に必要な知識の習得および、各種設計書の理解と作成する技能を身につける。また、設計書に基づいたネットワーク環境を構築し、トラブルシューティングを行う事ができる。	3 年 前 期	60	4			○	○										○	
73	○	脆弱性診断	脆弱性とは何か、CVSS、診断手法や評価手法などについて学習する	3 年 前 期	30	2			○	○	○										
74	○	市場調査/要件定義	現象に起こりうる「要件定義を元に、その要件に合うシステムの設計、機器構成、提案を行う」ための手法について学習する。 よりよい提案資料の作成方法についても考察を行う。	3 年 前 期	30	2			○	○	○										
75	○	セキュリティコンテンツ対策	・今まで学んできた技術がどのくらい適用するものなのかを試す。 ・三井物産セキュアディレクションが実施しているセキュリティコンテンツへの参加を目指す	3 年 後 期	60	4			○	○	○										
76	○	Oracle-DBA	Oracleデータベースシステムの構成技術の修得、及び実際にシステム構築を通して実体験を行う。 ベンダー直轄「ORACLE MASTER Bronze DBA 2019」取得を目的とする。	3 年 後 期	60	4			○	○	○										
77	○	AI基礎	情報社会が抱える諸問題を多角的に分析・解明した上で、その問題の解決策を論理的に構築するために有用なデータマイニングの基礎技術の習得を目指す。	3 年 前 期	60	4	○		○	○											
78	○	卒業制作Ⅰ	・2年間学んだ技術や知識を生かし、各自で企画した内容で制作、研究を行う。 ・各自のスキルアップを目指す。 ・後期卒業制作の下地作りとして役立つようにする…スケジュール感やテーマなど。	3 年 前 期	90	6			○	○	○										
79	○	卒業制作Ⅱ	・これまで学んだ技術や知識を生かし、各自で企画した内容で制作、研究を行う。 ・各自のスキルアップを目指す。 ・前期卒業制作の経験を踏まえ、計画的に、かつ良い制作/研究となるよう心がける。	3 年 後 期	60	4			○	○	○										
80	○	卒業制作Ⅲ	・これまで学んだ技術や知識を生かし、各自で企画した内容で制作、研究を行う。 ・各自のスキルアップを目指す。 ・前期卒業制作の経験を踏まえ、計画的に、かつ良い制作/研究となるよう心がける。	3 年 後 期	30	2			○	○	○										
81	○	高度国試対策Ⅰ	情報処理安全確保支援士試験合格を目標とする。	3 年 前 期	30	2	○		○	○											
82	○	高度国試対策Ⅱ	情報処理技術者試験のうち「高度試験」に分類され、ネットワーク技術の専門家を対象とした「ネットワークスペシャリスト試験」午前Ⅱ、午後Ⅰ突破を目標とする	3 年 後 期	30	2	○		○	○											
83	○	実践英語Ⅰ	・ Staying updated with General and Technology News from English News Sources. ・ Reading Manuals in English Overcoming the Fear of reading English manuals. ・ Reading, listening and implementing English technical documentation	3 年 前 期	30	2	○		○	○											
84	○	実践英語Ⅱ	・ Staying updated with General and Technology News from English News Sources. ・ Reading Manuals in English Overcoming the Fear of reading English manuals.	3 年 後 期	30	2	○		○	○											
85	○	企業会計	財務と会計は企業にとって非常に重要で、経営者が自社の経営判断を行ったり、第三者が企業の状況を分析するうえで必要となる知識を簿記や財務諸表の分析を通して学んでいきます。	3 年 後 期	30	2	○		○	○											
86	○	簿記	簿記を通じて、ビジネス会計に必要な知識を習得していきます。仕訳から決算書作成まで学んでいきます。日商簿記2級合格レベルを目指します。	3 年 前 期	30	2	○		○	○											
87	○	体育実習Ⅲ	運動や、課外活動、学習を通して、健全な身体と精神を育む。ハイクラスは、自然の多い公園などをおおむね4時間程度歩き心身のバランスを図ります。学習後は、各種催しの企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。心身の健全な育成を目指しています。	3 年 通 年	30	2			○	○	○										
合計					87				科目											3240	単位(単位時間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教務で定めた必修科目を習得し（成績評価がC以上）、必修科目、洗濯必修科目を含めた修得科目（成績評価がC以上）の総時間数が2550時間以上、かつ取得単位数が170単位以上取得した者	1学年の学期区分	前後期
履修方法：自クラスで指定された時間割に従って授業を受講する。また、選択科目として開講されている科目を受講することもできる。	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。